

久留米大学を受診した患者さんへ

「大腸癌肝転移患者に対する化学療法における造影CTでの転移巣の形態学的評価とCT値評価との比較検討」の研究に使用する試料について

この研究では、久留米大学を受診し、手術・検査の際に採取し保存されている以下の試料を使用します。

- 1) 期間：2006年4月から2014年11月まで
- 2) 受診科：外科
- 3) 対象疾患名：大腸癌肝転移
- 4) 使用する試料：造影CT、肝切除摘出標本

あなたの試料を今後の医学の進歩のために研究に使用させていただきたくお願い申し上げます。研究の内容の詳細は以下のとおりです。

研究内容をよくお読みになり、もし研究にご協力いただけない場合は、お手数ですが下記の連絡先までご連絡ください。

研究ご協力の撤回受付は研究成果の公表前までとなります。

ご了承いただけますよう、お願い申し上げます。

- 1) 研究組織：所属：外科
研究代表者：教授 赤木由人
研究分担者：講師 衣笠哲史
画像診断センター 黒木英郁

2) 研究の意義と目的：これまで大腸癌肝転移に対して化学療法を行った場合、CT画像において腫瘍の辺縁が明瞭化するなど腫瘍の形態学的な変化が効果判定に有用であることは報告されています。また化学療法の奏功している際には腫瘍のCT濃度が変化することも報告されています。本研究では大腸癌肝転移における初期治療化学療法の奏功度を腫瘍細胞の壊死を反映したCT値（造影濃度）を測定し、具体的に数値化することでその効果判定をより客観的に治療前後で比較することを目的としています。造影CTは通常の大腸癌診療の通り同条件で治療開始前後で検査を行います。肝切除手術を受けられる患者さんについては、これらの背景をもとに切除標本を用いて臨床、病理学的奏功との関連を明らかにしたいと考えています。

3) 研究の方法：造影CTは通常の大腸癌診療の通り同条件で治療開始前後で検査を行います。化学療法開始後は2-3ヶ月毎に効果判定目的に造影CT検査を行い（これも通常の大腸癌肝転移患者に対する効果判定方法と何ら変わりはありません。）具体的に転移腫瘍のCT値を測定していきます。

- 4) 研究期間：平成 26 年 11 月倫理委員会承認後～平成 29 年 3 月 31 日
- 5) 上記の試料の使用を選定した理由：平成 26 年 11 月開催の倫理委員会承認後より新たに診断された大腸癌肝転移症例について研究していきますが診断される症例数はそれほど多くはなく、過去の症例も含めて研究していく必要があります。
- 6) プライバシー保護・人権保護・倫理的配慮について：本研究への登録は匿名化され、逆行して参加者の特定はできません。
- 7) 研究成果の発表の方法：本研究の成果は学会発表や論文掲載予定ですが、内容に個人情報が含まれることはありません。
- 8) 事務局、問い合わせ、連絡先：
久留米大学 外科学講座 助教 片桐 光浩
〒830-0011 久留米市旭町67
Tel0942-35-3311 (内線3505) Fax0942-34-0709
E-mail mitsuhiro_katagiri@kurume-u.ac.jp

研究番号 14179